

第14回 議員と語る会(2025)

議会懇談会

令和7年(2025年)12月26日

発行／河北町議会

編集／議会運営委員会

河北町農業の課題は

10月16日に、さがえ西村山農協の役員6人、営農生活センター長、河北支所長の2人と河北町議会の総務産業・厚生文教常任委員の5人が懇談いたしました。

河北町の農業は 複合的経営が特徴

河北営農生活センター長
渡部 恵嗣さん



河北町農業は稲作に枝豆、さくらんぼの果樹栽培など複合的な経営が特徴です。
農家の年齢は5年前で75歳以上が36%、65歳以上が78%、若い農家がとて少ない状況です。

異常気象が常態化し、収量が減少、今年度は7月の渇水と8月の高温で1割減少、ひどいところは5割減少しています。ふるい下米が多い状況です。

さくらんぼはJAの取扱量が過去最低となり、生産者が30人減少、開花期の天候不順、収穫期の高温によるウルミで、2年続けたの不作になりました。

枝豆も高温障害で年々収量が減り、8月の高温により、身が入らない症状が出ています。

熊関連では慶光寺山付近のりんごの被害が甚大です。

町民・国民の 食の安全を守る役割

岩本 縄潤一さん



JAは食の安全を守っていく役割があると考えます。今回、米の概算金は3万円ほどになりましたが、一方で資材費は1・5倍になっています。

今後米価が下がり、資材代だけが高くなる事態も心配され、町による資材代高騰対策などの検討を求めたいです。



果樹園芸の資材、 物価高に対策を

田井 関将利さん



果樹園芸にも勢いが欲しいです。果樹園芸の資材の物価高に対策が必要です。

サクランボ産地大切に 退職後の農家支援を

北口 石垣 正博さん



退職後にサクランボと枝豆を作っています。



す。町はサクランボ産地を大事にしてほしいです。退職後から始める農家が多いので、ぜひ支援すべきだと思います。

農業をゼロから 始めるのは大変

谷地 浅黄美津子さん



初めて野菜を栽培し、産直に出しています。軽トラックやハウスなど、準備をするのがとても大変でした。

西部地区の中山間部は 耕作放棄地に対策を

沢畑 藤田正広さん

谷地西部地区は中山間地域で、農家が辞めると引き受け手がおらず、耕作放棄地が増えています。対策が必要です。

中山間地域の農地面積が5アールくらいで、平野部の水田30アールに対して小さ

く、大型機械が入れず耕作放棄地の増加が危惧されます。
農機具、農業資材高騰により離農者が増えるのではないかと思っています。

河北で就農の勉強 大江で本格就農の流れ

河北支所長
鈴木賢さん



大江町では就農支援で5ヘクタールのすもも団地を作っています。

苗木を植えて、収穫ができる状態の畑を新規就農者に渡して、1年目から収入があるようにしています。

大江町の支援事業が充実しています。果樹

団地を整備し、作業小屋や住宅、農機具の購入支援等があります。
河北町で研修を受け、大江町で本格就農する流れを見直しするべきです。

谷地西部地区に 果樹団地はどうか

沢畑 藤田正広さん

谷地西部地区は傾斜があり、日当たりが良く果樹づくりに向いています。
無理に田んぼにせず、町の事業として果樹団地にして、新規就農者の支援に活かしてはどうでしょうか。



動物園などから ひな産直へ誘導を

畑中 奥山利弘さん



河北町には大人気の動物園など、いろいろあるので、そこから、ひな産直などにうまく誘導してはどうでしょうか。



その他の様々な話題

国道からの誘導看板と 産直への除雪を

アグリランド寒河江は県外客が多いが、ひな産直は地元の客が多い傾向があります。
ひな産直は、国道から引っ込んでいて、存在がわかりにくいので、看板など工夫が必要で、冬季間は、運搬時に農産物が傷むほど凸凹になるので、ひな産直に通じる町道の除雪を、丁寧にしてほしいと思います。

進入路整備を早く

谷地工業団地の交差点からひな産直方面への進入路整備はいつになるのでしょうか。

産直からの出口に カーブミラーを

ひな産直やひなの湯からの帰り道、町道に出るところの見通しが

悪いので、カーブミラーが必要です。

産直の加工施設の 貸出しはとても困難

産直施設にある加工施設のテストキッチンとしての貸出しは行っていない。町からの要望により整備しましたが、衛生面から許可が必要で、基準が厳しくなっていて、農家の方に簡単に貸すことができません。

概算金は農家のため

米はJAの概算金を目安に業者から買付されます。概算金制度は、農家により多く支払うためのシステムです。
サクランボはJAが育てきた自負があります。サクランボを引き取りに行くシステムはJAもやっています。



11月18日に、区長会の役員4人と河北町議会の厚生文教・総務産業常任委員の9人が懇談しました。

今後のまちづくりについて

まちづくりに対する具体的・全体的な青写真が見えないことについて

まじりのことは

町全体で

溝延 佐藤眞潮区長



谷地どんがまじりが伝統的なこととしてありますが、沢畑の風まつりや溝延の八幡のまつりなど各地にあります。

河北町として、谷地どんがまじりが大事なことはわかっていますが、皆さん方でまとまっていくのでしょ

うか。

少子化の影響で、谷地どんがまじりをはじめ、各地の伝統まつりを継承するには多くの課題があります。谷地どんがまじりだけでなく、町全体で実施できる体制を構築すべきではないでしょうか。

区長のなり手不足

西里 岡田桂司区長



区長の仕事が多く、なり手が不足しています。区長の仕事の軽減が必要ではないでしょうか。

さらに、協議会等のあて職の役割が多いです。町は区長の仕事を精査して欲しい。

まちづくりについては、西里地区は毎年、町民の声を町長、課長に要望しています。役場への要望は、取り下げると実現しないので、継続して言うことが大事だと思って出しています。

青写真が見えない

町民・行政・議会と一緒に

谷地 布川雄二区長

町内の問題について毎年要望を行ってきたが、実現できた項目が少なかったです。できる・できない結果を町民に説明することも大切ではないかと思っています。

また、事業の実施については町民・行政・



議会が一緒となって取り組まなければならな

いと考えています。役場の職員の皆さんには業務に対して全体を見て、他の課とつながりがあるような仕事をやってもらいたいです。

また、快い笑顔としっかりとしたあいさつ、窓口での受け答えなどが町民をなごます力になります。

「議会だより」に期待

政策課題の検討結果を掲載して欲しいという。また、一般質問の答弁の結果が「検討する」となった後、検討の結果がどうなったのかを教えて欲しい

と思います。今はまちづくりの青写真がないのではないかと感じています。

活性化を期待

北谷地 中野劭区長



まちづくりは各地域の情報発進で成り立っています。

北谷地のイベント、スポーツ大会、文化祭などふるさととのまじりがあります。

コロナ禍以後、地域行事に対する参加者が少なくなっています。第8次後期基本計画においては、谷地地区だけでなく、町全体の活性化の施策を期待しています。

谷地中央の話しか出

てこないと感じます。引竜湖へのアクセスができない、道路が狭くて通りにくい。引竜湖をもっと活用できないのか、残念に思っています。

○佐藤議員

人口減少社会においては、町民からの要望だけでなく、町民自らが中心となった地域協働のまちづくりが求められています。

○安達議員

人口減少社会において、谷地地区だけでなく、周辺の地区も活力ある町を創造する計画が大事です。

○吉田議員

河北町総合計画を基本としてまちづくりを推進していますが、町長はリーダーシップを発揮し施策の実効性を高めることが大事ではないかと思っています。また、人口減少対策とし

て、企業誘致についても積極的な取り組みが必要で。

町立小中学校の 在り方について

布川区長

町が進めているのは義務教育校でない小中一貫型の学校にするということ。

従って、小学校、中学校にそれぞれ校長が配置され、系統的な教育を実施する設置形態です。

財政が厳しいのであれば、小学校と中学校がひとつの場所でも良いのではないかと思います。町民の意見を良く聞いて進めてもらいたいです。

佐藤区長

子どもの将来を第一に考えて欲しいと思います。あり方検討委員会では小学校一校に結論付けました。

あり方検討委員会の会合を溝延地区で行

れた際は参加者が少なかったです。溝延小学校においても子ども数が少なく、団体競技ができない状況です。

令和13年開校の案については、保護者の方からは非にという声もありました。整備委員会で事業の金額が提示

されたところです。

岡田区長

小中一貫教育については、議会が視察研修した成果を参考にし、教育方針にいかして欲しいと思います。

観光振興について

観光物産協会等との共通の具体的なイメージについて

歴史と文化のまちとして、河北町の独自性を打ち出すことについて

資料館の体制強化を

布川区長

紅花資料館などを本当に大切にしていきたいと思います。学芸員の2名体制は考えられないでしょうか。

また、観光物産協会は、紅花資料館の運営にも参画し、紅花の温室栽培等にも取り組んでいます。今後は動物園と合わせて交流人口

○鈴木議員

の拡大に向けた知恵を期待します。

本町はひなと紅花を基調とした歴史と文化の町ですが、他市町村と比べると戦略的に弱いのではないかと思います。観光物産協会の事務所を町の中心に据えて、観光PRにもっと力を入れるべきです。

さらに、本町の文化



体制強化が望まれる紅花資料館

○安孫子議員

財を町民の目に触れさせることが大切であると思っています。

町の豊富な観光資源（動物園や紅花等の文化）を面的に整備し発信すべきではないかと思っています。重要なことは、滞在してもらうことが大事であり、受け皿として、民間や企業等と連携を密にし「地域資産」を観光の魅力に変えることが大切です。

下水道整備事業について

一部の地域が未設置地域になったことに対する議会の対応は

佐藤区長

下水道事業の整備手法見直し（溝延分区分）について数回、説明会が行われました。

参加者からは合併処理浄化槽の性能（悪臭対策など）の不安が指摘されました。

議会は、このような状況を把握しているのでしょうか。

○増川議員

事業変更の内容と住民説明会の状況は8月

に報告を受けています。地区に説明し、一定の理解を得たと聞いています。

下水道事業が公営企業会計に移行したため、収支について厳しく見ていくことになりました。

下水道への接続率は82.5%くらいです。

10年以上、接続していない家庭は、高齢者や一人暮らしの方が多いうです。



東北で見られるのは本町だけ話題のオニオオハシ（動物園）

懇談会参加者

(敬称略)



さがえ西村山農業協同組合

理事 縄 潤一 J A 河北支所長
 理事 石垣 正博 鈴木 賢
 理事 奥山 利弘 J A 河北管農生活
 理事 関 将利 センター長
 理事 浅黄美津子 渡部 恵嗣
 監事 藤田 正広



河北町区長会
 会長 佐藤 眞潮
 副会長 岡田 桂司
 副会長 布川 雄二
 副会長 中野 劭



区長会役員との懇談の様子



J A 役員等との懇談の様子

発刊にあたって

あとがき

地域の課題や未来への展望について、率直な意見交換ができた有意義な時間でした。

皆さまの声を受け止め、提言に活かす努力を続けてまいります。

今後とも懇談会を通じて、住民と議員が共に歩む姿勢を大切に、より良いまちづくりに向けて邁進していきます。

(みつひろ)



編集担当

議会運営委員会

委員長 石垣 光洋
 副委員長 細矢 誓子
 委員 佐藤 修二
 委員 東海林信弘
 委員 鈴木 英友
 委員 増川 憲一